機能訓練指導員による集団活動の役割と実際

野沢勇太

特別養護老人ホーム　あおいの里・長岡

【はじめに】

当施設は2019年4月に全フロアユニット型として新潟県長岡市に開設された新設の特別養護老人ホームである。入所者の日常生活に於いて定期的な活動提供の場を設ける目的として集団体操を実施している。利用者の実施状況や内容、頻度について報告する。

【対象と方法】

対象は施設入居者（研究に同意を得た）29名（男性8名、女性21名、平均年齢85±3歳）、除外11名（集団活動を拒否/皮膚トラブル、褥瘡状態により離床時間に制限が生じている）。頻度は週4回/日、運動時間30分、対象人数：各ユニット10名（計40名）。

【実施内容】

①足踏み20回×2set②足踏み30回×1set（①②は立位）③足踏み20回×2se（座位にてペース遅延）④ペットボトル体操⑤足関節底背屈各20回⑥指体操⑦歌唱（季節に応じた童謡歌謡曲が中心）⑧深呼吸

【考察】

開所して半年以上が経過しているが、日々の業務の中で各職種における業務マニュアルや委員会活動等が未作成、未活動となっている部門もあり、働きながら必要な確認事項を募り、適宜調整を図っている。集団活動は機能訓練指導員に一任されているが、継続的に生活リハとしての介護業務の中での接点を説明していき、徐々に活動機会を機能訓練指導員以外にも拡充していく必要がある。

内容としては要介護3以上の入居者が一律で同一のアプローチを提供する事に対して、自発的な活動量に差異が生じている印象を受けるも認知面の賦活化や他者との交流、離床機会の提供を目的として参加を促している。各入居者の出来る/出来ないADLを評価し、特養という施設の社会的役割を鑑みても出来るADLにフォーカスしたプログラム設定に努めており、その中から転倒リスク、環境因子を除外した状態での集団活動を進めている。今後も職員や入居者との綿密な連携を図り、疲労度、入居者の意欲・希望に応じた内容を図り、継続性や効果についても検証していく。